



社会福祉法人 白鷹町社会福祉協議会会長
社会福祉法人 白鷹福祉会顧問

竹田 恵一

「みんなで支え合う福祉づくりを」

二十一世紀を目前にして、少子、高齢化の進展、生活意識や家族形態の変化を背景にして、今後更に私達の生活を充実させ、より住みよい地域づくりのために、行政機関、民間福祉団体関係機関、そして地域の力を集めて誤りのない福祉づくりに努めています。その役割の一翼を社会福祉協議会が担っています。

その柱の一つが、これからの福祉を正しく見据え、どう受けとめなければならないかを皆で考え合う啓発の仕事です。

二つには高齢社会を踏まえ、要援護ご老人の介護者諸々の支援サービスです。三つには色々な事情でそれぞれの福祉サービスを求められる方への福祉支援と、今後大きな資源として不可欠なボランティア事業であります。出来る限り適切に公平に、落ちのいない様に工夫して進める役割があります。

福祉支援の手立てとしては、福祉サービス等ハードなもの、相談助言やホームヘルプサービス等のソフトなものがあります。対象者の立場

を考慮して、うまく組み合わせる事がサービスの質の決め手になる大切な事となります。加えて、サービス提供者の心と知恵、意欲と実践力だと思っています。どの部分がかみ合わなくとも質の高いサービスとは言えないと思います。サービス資源づくりの土台を、行政では、確実な社会調査からの諸計画と醸成、実践。民間団体は家族と地域性を踏まえた配慮と、工夫の効率性の高い柔軟性をもつ対応と推進。そしてそれを支える理解ある地域づくりと支援態勢だと思っています。

個性と多様化の時代、福祉の考え方も、受け取り方も決して一様ではありません。家族感も生活感も、それぞれの価値意識ですから当然の事と思っています。しかし前述のとおり「構造的変化」は認めた上で、個々の歴史、心情を大切にしながら、共通の住み良い、しかも共助の社会を一步づつ造り上げて行かなければと思うのです。

四月から健康福祉センターが開設されました。

私達の生活の土台になる機能です。よりよく活用出来る様に力を合わせていかなければと思います。避けては通る事の出来ない福祉づくりだと思えますから、お互いに一層理解を深める事の大事な時期だと考えます。



職員の声

★ いつになく見たこともない表情、心踊らせて昨日は眠れなかった様子でした。外出着に着替え子供の様にはしゃぎ、車内は盛り上りました。

メニューを見ても、そばを食べたい、寿司も食べたいと仲々決まらずとまどっていました。

毎日毎日おいしい食事をいただいているが、外食の味はまた格別のようなです。「時々連れて来てほしい」と話して、満腹満足感で笑顔が絶えませんでした。

★ 外の空気を吸い、晴れ晴れとし、自分の好きな料理をいただく喜びの顔がありました。

★ 生きる上で最も大切なこと、楽しみ、一つでもある「食」それを様々な形のサービスとして提供し、喜んで頂ける。その満足した笑顔が私達職員の喜びです。あんまりグルメになるとこまるかな？



希望外食ドライブ

入所者の声

渡部 きみ子

始めて行ったのですが、園ばかりで食事を取るよりドライブをしながら外で食事をするのは格別です。年一回しかないがもう一回ぐらい増やしてほしい。



樋口 あさ

つつじがちょうど満開で、とても良かった。その後の食事もたいへん良く、定食をいただいたのですがとてもおいしかったです。量が多くて全部食べきれなかった。

須貝 栄五郎

三回目になるのですが、何回行ってもいい。ショッピングをしながらの外食でした。ふだん食べれないヒレカツ定食を食べて来ました。とても満足です。

白光園の給食処遇のひとつとして、希望外食は昭和五十九年より開始されました。

町内の食堂のメニューの中より自分の希望するものを選んでいただき居室へ出前をしております。五目中華や鍋焼きうどん等が多く注文されました。その頃は六月と十一月の年二回の実施でした。

年々入所者の高齢化が進み、食事内容も低下が見られ、平成四年からは、希望外食も可能者のみとなりました。種類別にグループを組み、ホールでの喫食になりました。そうした中で、外で食事をしたという声も聞かれました。

平成七年に処遇部門の春のドライブと、希望外食を共同で実施し魅力ある希望外食ドライブに生まれ変わりました。

近郊の名所をドライブし、レストランで昼食をして来ます。

参加者も多く好評につき継続して行く予定です。

